

《小学生の部》  
優秀作（文部科学大臣賞）

大阪府四條畷学園小学校  
5年 谷 青葉

大切な人を思い浮かべて

「今日も雨か。」ここ最近、雨ばっかりで気持ちはどんよりしていた。パジャマのままで朝食を済ませ、学校の支度をしていると「母さん、大丈夫なのか？」リビングから父の声が聞こえた。祖母からの電話のようだ。どうも自転車のカゴにたくさんの食材をつめこんで、バランスを崩して転んだらしい。雨上がりに食材を買いたい、祖母の行動もわかる。週末、祖母に会いに行った。あごに貼られた大きめの絆創こうが目に飛び込んでくる。父母も真っ青な表情で祖母の話を聞いていた。私が生まれた夏に購入したという祖母の自転車も、あちこち傷んでいたので買い替えることになった。「お客様人気のヘルメットがありますよ。」店員さんにそう言われた祖母は、首を横に振って口を真一文字に結び「いい、まだ大丈夫。」と断っていた。ご近所の人も被っていないし、恥ずかしいということだろう。私も父母もがっくり。まあそうなるよな。

今春、大阪府警察本部で行われた交通安全コンテストの表彰式で、最優秀のお姉さんが作文を朗読されたとき、会場中がそう然としたことを祖母に話した。それは妹さんが自転車に跳ねられて地面へたたきつけられる事故にあい、今でも顔の傷あとを手でこすって取ろうとする。交通事故は目に見える傷だけではなく、心にも傷を負うんだと知ったお姉さんは、春から新一年生になる妹さんを事故からどうやって守れるのか、家族で考えて話し合った内容だった。祖母はやりきれない表情で「妹さんもお姉さんもご家族も交通事故でつらい思いをされているんだね。やっぱりヘルメットを被るよ。心配かけてごめんね。」と言ってくれた。祖母にも大切な家族が傷つく苦しさや悔しさをわかってもらえたようだ。これからもヘルメットを被って安全運転してほしいな。

学校帰り、友達とおしゃべりに夢中で横断歩道を渡ろうとしたとき、ふと、祖母の顔を思い出した。「そうだ、冬休みからチャレンジしている、横断歩道ではドライバーさんに目線でいいさつするんだった。」このコンテストがきっかけで、大切な家族を思い行動できるようになった。「みんなも大切な人の顔を思い浮かべて行動してみませんか。」そうすれば周囲もよく見えてくるはずだ。一人ひとりが交通事故を起こさないように行動する。そして運転者も歩行者もお互いに目を合わせて、相手の行動を予測し、思いやりと譲り合いの行動をする。「帰りを待っている人がそれぞれいるんだぞ。」と思えば、気持ちもほっこ

りして余裕が生まれて、思わぬトラブルや悲しい事故が減らせるのかもしれない。あのお姉さんの切ない表情は大人になっても忘れない。

今日も大阪府警察本部で副賞としてもらったお気に入りの真っ白いヘルメットを被って安全運転だ。「おや、虹が出てきたぞ。」祖母はどうしているかな。声をかけてみようかな。